

愛の便り

校訓: 志が人生を創る

良いお年を お迎え下さい

冷え込みも厳しくなり、教室のエアコンも朝からフル稼働です。「涼」を飛ばして「暑」から一気に「寒」へ。今日で78日間に及んだ長い2学期が終わりました。昨年度のような感染症による学級・学年閉鎖を免れ、みんな元気に過ごせたことが何よりです。ただ、12月に入ってからは病欠や出席停止が相次ぎ、人の移動・接触が激しくなる年末年始も決して油断はできません。1年の大事な節目を迎えるこの時期です。引き続き予防に努めてほしいと思います。

さて、毎年のことですが、この2学期は多くの学校行事や学習活動を通して、子どもたちがしなやかに成長したことを実感する学期でした。私たち職員も多くの感動をもらい、職員室は日々子どもたちの話題で話に花が咲いていました。私もその会話に入ったり、話題を共有させてもらったりして幸せを感じたところです。一方で、時には厳しい指導を受けたり温かい言葉を掛けられたり、また、背中を押されたり前から引っ張ってもらったりと、いろんな場面を見てきました。担任や学年担当、あるいは部活動顧問という立場で先生方は子どもたちを見守り、より良き方向へと導く姿がたくさんありました。やっぱり「学校」はいいですね。

いよいよ明日から約2週間の冬休みが始まります。この冬休みは、「新しい年」を迎える大きな節目でもあります。「たった2週間なんだから、、、」と考えるか、「わずか2週間しかないから、、、」と考えるかで、大きな違いが出てくる大事な時期でもあります。つまり、自身の心がけ次第で良くも悪くもなるということです。

冬休みは生活習慣が乱れがちになり、体調を崩したり生活リズムそのものが崩壊したりする可能性が出てきます。3年生は、間近に迫った高校入試に向けそれどころではないと思いますが、油断すると自分の夢や目標を失いかねません。心してこの2週間で過ごしましょう。

とりわけ、1、2年生はゆとりがありすぎて危険な状態になるのではと危惧しています。本校の実態として、平日でも2~3時間以上TVやスマホに興じている生徒が各学年にいるのが事実です。この現状を考えればテレビやゲーム、スマホ漬けになるのは容易に想像できそうです。本日配布したPTA 広報誌「希望の池」にも掲載してありましたが、「スマホやゲームの使い過ぎ・依存症に注意して、大切な睡眠時間を守ります。」を意識した生活を心がけてください。今の自分をどうすべきか、これからの自分はどうかを確認し、家庭での過ごし方について話し合いを持っていただければ幸いです。(冬休みの過ごし方については、別紙プリントをご確認ください。)

今年最後の学校便りが108号というのも偶然です。今では除夜の鐘を突く光景はあまり見られなくなりましたが、人の内側にある煩惱(自分自身を苦しめる心)を払って、幸せな一年にしてください。

皆さん、ご家族揃って良いお年をお迎えください。

雲仙市立愛野中学校 学校便り

令和6年12月24日

第108号(通巻)

文責(校長;末永栄喜)

人権集会で学んだことを言動に表そう



今年も人権週間に合わせて人権集会を12月6日(金)に行いました。昨年度の集会は、インフルエンザ感染拡大が懸念される中でし

たのでリモート開催を余儀なくされましたが、今回は全校生徒が一堂に会して実施することができました。事前のアンケート結果から各学級の現状や課題を洗い出し、一人一人が安心して過ごすためにはどうしたらいいかを考え、学級独自の「安心ルール」を作成して披露しました。その後、「うわさのしくみ」というアクティビティ(写真のような体験学習)に取り組み、どの学年も積極的に活動する姿が見られたようです。

当日は出張のため直接見ることはできませんでしたが、メッセージとして宣言で謳った内容や学習したことが、今後の姿勢や意欲として根付き、行動に表れるようになってほしいと伝言を残しておきました。集会を単なるイベントに終わらせず、これからの言動で示すことを期待しています。実行委員の皆さん、お疲れさまでした。



愛野中学校人権宣言

- 一、 私たちは、人それぞれに多様性があるということを理解し、自分や相手を受け入れ、お互いの意見を否定せず、尊重し合い、助け合っていきます。
- 二、 私たちは、個人の性格・容姿・考え方・能力・性別などによる差別やひやかし、暴言や暴力、誹謗中傷などのいじめを人権侵害ととらえ、絶対に許しません。
- 三、 私たちは、教育を受ける権利を持ち、授業に積極的に前向きに取り組みます。
- 四、 私たちは、自分の命も友達の名も大切にします。
- 五、 私たちは、自分の意見をしっかり伝え、相手の意見も否定せず、思いやりを持って、学年・男女関係なく支え合っていきます。

鳥原更生保護女性会寄付金の使途 第3弾

全校生徒の名札に続き、余剰金で次亜塩素酸加湿器を購入しました。全教室への設置は予算上不可能ですので、出入りが多い職員室に設置させていただきました。

授業を受け持つ職員がまずは感染から身を守り、予防に心がけながら子どもたちの学習環境を整えていきたいと思ひます。

※今号は裏面もご覧ください。



◆雲仙市中学生英語スピーチコンテスト出場(12/14)

松永那奈(2年) 原永健大(2年)

瑞穂町公民館集会所で各校の代表が集いコンテストが行われました。長崎県イングリッシュ・スピーチコンテストの市予選会として位置づけられたもので、本校を代表して



二人が挑戦しました。本スピーチが「私のふるさと」という内容に指定されてから2年目を迎えます。

二人とも「My hometown」というタイトルでふるさとを紹介しました。生まれ故郷が小浜町的那奈さんは小浜町のアピールポイントを、健太さんは雲仙市の魅力に加えて改善点も指摘していました。

最後の講評では、大学の先生から「この経験は(強調して)将来必ず役に立ちます。」とエールを送られ、スピーチのコツとして相手意識をもって論を立てること(誰に対して、何を伝えたいのか、なぜそう思ったのかなど)の重要性も教えていただきました。二人とも特訓の成果を発揮した立派なスピーチでした。

生徒会役員へバトンタッチ!!



先週の木曜日に、生徒会の役員任命式と引継式を行いました。2学期も数日を残しての大きな節目でした。新しい役員に任命状を渡した後、佐藤新会長からも専門部の委員長・副委員長に委嘱状が渡されました。一足先に新年度顔ぶれすなわち、愛野中学校を動かす中枢部が固まったわけです。

これまで愛野中学校を支えてきた旧役員(3年生)の活躍と功績は目を見張るものがありました。学校生活をより楽しく充実したものにするために、様々な工夫やアイデアを駆使しながら全校生徒の要望や願いに応えてきた実践は高く評価できるものでした。本当にご苦労様でした。

新役員もその土台を継承しつつ、みんなの期待に応えてくれることでしょう。今後の活躍を楽しみにしています。経験を積みながらその力を存分に発揮してほしいと願います。

「どんな学校を創るのか、どう学校を変えるのか」は一人一人の心構えにかかっています。自分の学校に誇りが持てるか、愛野中学校に自信が持てるかは、一人一人の行動にかかっているのです。

これまで脈々と受け継がれてきた愛野中の伝統を、全校生徒の総力を結集してさらに発展させ、新しい歴史を刻んでいきましょう。

紹介できていなかった専門部役員を紹介します。

委員会名	委員長(2年)	副委員長(1年)
生活	坂田敦彦	鍬取彩奈
学習	古賀千尋	中村一葉
文化	小堀芽愛	永田藍佳
給食	谷口愛弥	鶴崎 杏
保体	峯 蓮人	橋本隆助
美化	太田凜太郎	山越楓花

『凡事徹底』 聞いたことがありますか?

学校の標語や訓示、会社の経営方針から全国制覇を成し遂げた各チームのスローガンなど、ビジネスに限らずスポーツや教育分野の至る所で広がっている言葉です。

「凡事」と「徹底」の二つの熟語を組み合わせた四字熟語ですが、凡事は「ありきたりなこと」、「当たり前のこと」、徹底は、「態度・行動が中途半端でなく、一つの考え方で貫かれていること」という意味です。よって、「凡事徹底」は、「当たり前のことを徹底的に突き詰めて行うこと」を言い表しています。

調べたところ、カー用品販売大手 イエローハット創業者の鍵山秀三郎さんが広めた言葉のようです。その著書の中で、以下のように述べておられます。

私が今まで歩いてきた人生をひと



言で表現すると、『凡事徹底』。つまり「誰にでもできる平凡なことを、誰にもできないくらい徹底して続けてきた」というこ

とに尽きます。ともすると人間は、平凡なことはバカにしたり、軽くあしらったりしがちです。難しく特別なことをしなければ、成果が上がらないように思い込んでいる人が多くいます。そんなことは決してありません。世の中のことは、平凡の積み重ねが非凡を招くようになっています。いつも難しく大きなことばかりを考える人は、失敗したり続かなかったりして元へ戻ってしまうことが多いものです。できそうにない特別なことばかり追いかけるよりも、誰にでもできる平凡なことを少しずつでも積み重ねていけば、とてつもなく大きな力になることを知るべきです。平凡なことを徹底して続ければ、平凡の中から生まれてくる非凡が、いつかは人を感動させると確信しています。

松下電器産業(現;パナソニック)をたった一代で世界的企業に育てた経営の神様 松下幸之助氏も「簡単なことができない人に、難しいことはできない」と言い、平凡なことを徹底的に積み上げていくこそ、大きな成功を得ると述べています。



また、日米通算4,367安打、シーズン最多262安打と、これから先誰も達成できないであろう大記録を打ち立てたイチロー選手も「特別なことをするために、特別なことをするのは、特別なことをするために、当たり前のことをする。」と言っています。

ちなみに、「今までに、これだけはやったと言える練習は?」の問いに、「1日にたった10分ですが、寝る前に素振りをしました。その10分の素振りを1年365日、高校生活3年間続けました。」と答えています。



物事を成し遂げるには、当たり前のことを当たり前にできるか、徹底してできるかにかかっているということです。それぞれのご家庭でも「我が家における『当たり前』とは何か?」を話題にして、その「当たり前」をお子さんが意識して実践できるような励ましや働きかけをお願いします。

1学期終業式で話した「積小為大」にも通じるものがあると思ひ、この話を式辞として2学期を終了しました。